

●本構想の目的

本市のスポーツ・防災拠点である橿原運動公園について、令和13年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を契機として、今以上に市民に愛される施設となるような整備の方向性について取り纏めるもの

●橿原運動公園を取り巻く環境変化や社会的要請等

周辺環境 ■畝傍山に抱かれた風光明媚な立地・景観 ■奈良県立医科大学新キャンパス開校 ■奈良県新アリーナ建設 ■近鉄「新医大駅」構想 など

- 社会的要請等**
- ① 主な上位関連計画:「橿原市スポーツ施設計画(令和4年3月)」「橿原市地域防災計画(平成29年3月)」等
 - ② 社会情勢・環境変化等:ウェルビーイング、インクルーシブ、ライフパフォーマンス、SDGs、災害の激甚化、熱中症対策 など
 - ③ 橿原運動公園に対する市民の期待:「スポーツを楽しめる公園」「健康づくりができる公園」「災害時により役立つ公園」「子育てに役立つ公園」

将来の橿原運動公園に新たに望む機能:「新たな親水機能」「カフェ・飲食機能」「屋内スポーツ機能」「災害時対応機能」「健康増進機能」「子育てに役立つ機能」

その他関連事項

- ◆2031年(令和13年)国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会 奈良大会の開催
- ◆橿原市立小中学校における今後の水泳授業に関する方針
- ◆橿原市中央体育館の建替再整備の必要性(橿原市スポーツ施設計画)

橿原市運動公園施設の適用手法
(橿原市スポーツ施設計画:令和4年3月)

総合プール	廃止
軟式野球場	機能改修・維持管理の効率化
ソフトボール場	集約化
硬式野球場	長寿命化・維持管理の効率化
テニスコート	長寿命化・維持管理の効率化
ヤタガラスフィールド	長寿命化・維持管理の効率化
屋根付運動場	長寿命化・維持管理の効率化

●橿原運動公園の整備の方向性

【整備により目指す方向性】

- 橿原運動公園を取り巻く社会的要請等やその他関連事項に対応し、周辺環境(まちづくり)の動向を踏まえて交流・賑わいの相乗効果を図る
- 橿原運動公園の現在の機能を維持・向上させるとともに、新たな市民活動の拠点性を高める
- 自然環境変化に対応し、市民の安全・安心を支える機能を高める

【橿原運動公園整備 3つの整備コンセプト】

- ① 市民の誰もが利用でき、すべての人にやさしい環境づくり
(インクルーシブ／ユニバーサル)
- ② 人が集い、交流の拠点となる環境づくり(感動体験／健康増進／QOL)
- ③ より安心・安全で快適な環境づくり(安心・安全／快適)

【橿原運動公園整備 5つの整備方針】

- ① 新機能導入用地としての公園区域の拡張
～北東用地の取得・活用による橿原運動公園の機能充実
- ② スポーツ活動の礎となる基盤としての新体育館・屋内プールの整備
～中央体育館の建替再整備、屋内スポーツ機能・親水機能創出
- ③ 災害時の避難場所等、市民の安全・安心を支える機能の導入
～災害対応機能を有する新体育館・屋内プール、移動可能なクラブハウスの整備
- ④ 市民の多様な活動を支え、快適に利用できる機能の補完
～屋内施設の多目的利用、新たな芝生広場創出、駐車場の拡張など
- ⑤ 公園内施設の再編・新たな利活用の推進
～総合プールの新たな活用方法の検討、既存施設の集約再編



橿原運動公園における新体育館・屋内プールの整備について

【新体育館・屋内プール 整備方針】

- ① 社会要請等やその他関連事項に対応し、新たな感動体験を得られる新体育館・屋内プール
 - ・市民の大会等の利用環境を高める
 - ・国民スポーツ大会屋内競技種目会場としての基準を備える
- ② インクルーシブな社会の推進を牽引する拠点としての新体育館・屋内プール
 - ・子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず様々な目的で利用でき、小中学校の水泳授業や部活動地域展開として利用
- ③ 市民の安全・安心を支える災害対応拠点としての新体育館
 - ・防災機能、広域避難場所機能を拡張
 - ・熱中症対策などの機能を充実

新体育館導入機能 延床6,400~6,600m²(現状:3,653m²)

メインアリーナ	競技床面積:1,400~1,600m ² (現状813m ²) バド10面、バスケ・パレー2面、ハンド1面、卓球10面 観客席1,000席程度(現状444席)、車椅子観覧席完備
スタジオ	様々な利用目的に対応 床面積200m ² 程度 バド1面程度
共用等	トレーニングルーム、更衣室・シャワー室、トイレ・ベビールーム、多目的室、放送室、医療室、管理事務室、器具庫、防災倉庫、テラス等

屋内プール導入機能 延床3,500m²

屋内プール	小学高学年以上25m×10レーン、可動床も検討 小学低学年以下15m×15m(幼稚可) 計2槽
共用等	更衣室・シャワー室、トイレ、監視員室、放送室、医療室、多目的室、管理事務室、器具庫等

●橿原運動公園の整備に向けて

【事業スケジュール】

段階的整備の推進	短期 (~2030)	中長期 (2031~)
①②公園区域拡張、新体育館・屋内プール整備	→	
④市民の多様な活動を支え、快適に利用できる機能		
③安全・安心機能の導入		
⑤公園内施設の再編・新たな利活用の推進	→	

【新体育館・屋内プール整備事業費概算】

- 新体育館(約6,600m²) : 38億円程度(R7年2月時点)
 - 屋内プール(約3,500m²): 23億円程度(R7年2月時点)
- ※他県の直近5年間で整備された類似施設のm²単価を参考に算出
※造成等は含まず

【新体育館・屋内プール整備運営事業手法】

- 想定される主な整備手法
 - ・従来方式(個別発注)
 - ・DB方式(基本設計先行型等)
 - ・PFI方式(BTO等)
- ※具体的な手法については基本計画策定時に検討